



NSバトルクライ

#215

3 / 2025 (136)

アルフレッド・コッツ

命令と服従

ヒトラー兵士への言葉

パート1

1st - 13th 版への序文（原文は1934年発行）

第一次世界大戦の鋼鉄の嵐が吹き荒れた時代には、良い面もあった。砲弾が炸裂するところでは、完全にわれわれのものでない者は誰もいなかった。臆病であるがゆえに義務を免れようとする欲望と機会を持つ者は、もはや我々の中にはいなかった。

同志諸君、私は諸君がすべてを前進させたいと切望していることを知っている。我々のコミュニティを偽るような者が我々の隊列を行進することを望んでいない。君たちは、かつて我々が中隊で持っていたもの、すなわち故郷のかけら、祖国のかけらを切望している。前線将校と同じタイプの中隊長に憧れる。そして、私たちの本質にそぐわない何かが、とても静かに、気づか



れることなく、忍び込んでくることを恐れる。あなたは、私たちが苦しいときに持っていたものを保てないのではないかと心配する。ヒトラーの勝利の旗の下、多大な努力の末に達成したものを維持できないのではないかと心配しているのだ。

赤い洪水が引いた時期には、良い面もあった。私たちは皆、互いをどう思うかを知っていた。ここでも、完全に私たちのものでない人は誰もいなかった。

テニシャルの大集会場で、総統閣下が一人一人の目を見つめながら、一か所に5時間も立っておられたのは、実に何年ぶりだろうか。権力者たちは、同志たちが国家にとって危険であるという理由で、ブーツを脱ぐよう強制した。しかし、同志たちは動じなかった。冬だというのに裸足で立っていた。青い帽子は「制服」とみなされ禁止されていたため、隠さなければならなかった。外には大量の警察がいた。中には、無口で忠実な男たちの巨大な隊列がぎっしりと詰まっていた。空腹で多くの人が膝をついたが、衛生兵が運び出さない限り、立ち去ることはなかった。そこにいるすべての人の心はひとつだった。ifsやbuts」はなかった。

その時、アドルフ・ヒトラーは我々に何と言ったか？”同志たちよ、一つだけ確かなことは、君たちの中に臆病者はいないということだ！”不快ではあったが、それは祝福された時間だった。私たちは、そこに立っていたすべての者が、生においても死においても共にあることを知っていた。

同志諸君、今、諸君は希望に満ちている。私たちが前線の世界で共に立ち向かうならば、そうでなければならないし、そうあり続けるだろう。私たちはただ、それぞれの持ち場で、共に注意しなければならない。

前線にいた男は、死を恐れていたのではなく、人生の虚飾を恐れていたのだ。自分の役割を果たした後に身を引く戦士は、危険が去ったとたんに、あまりにも簡単に自画自賛するようになる。1918年、我々はまだ壕の中にいた。後方からの不手際が、避けられない事態を招いたのだ。そのことは今でも私たちの骨の中に残っている。本物でないものが目につくようになると、私たちはすぐに古い恐怖と古い不信を感じる。

しかし、時代には大きな違いがある。

1918年11月：我々は、政党と腐敗という毒の花の出現の前に立っていた。こうして国家、民族、国家の崩壊が始まった。そして、指導者が欠けていた。

1933年1月：私たちは政党制度の終わりの始まりを経験した。腐敗と利益供与が突然なくなった。国家は民族と国家の改革のための強固な基盤を作り上げた。悲慘な年月と新たな勃興の違いを示す最良の兆候は、われわれの総統である。

われわれは検証する。前線は良好であり、われわれ自身、自分たちが何者であり、何が起きているのかを知っているからだ。もしこの両極の間に是正すべきことがあれば、総統は、分裂や怠惰を克服したように、それを克服するだろう。

最大の課題は達成された。われわれはいまもアドルフ・ヒトラーに全幅の信頼を寄せており、いつでもどこでも、彼の巨大な仕事を完成させるために全力を尽くして協力する用意があり、何度でも何度でも、命をかけてこの仕事を確保し、守る用意がある。

この事実は変わらない。さて、最終的な勝利が不必要に高くつくことのないよう、何をなすべきかをはっきりさせよう。私が総統の性質を簡単に説明すれば、私たちはすぐに理解しあえる--あなた方自身がすでによく感じ、考えてきたことだ。私が述べることは明白な真実だが、それでもまだ誰もが知っているわけではない。

14th 版への序文

「リーダーシップとフォロワーシップ」は、新しい何かを意図して書かれたものではない。真剣な仕事によって、すでに地ならしはできていた。最初の草稿は、私の所属する兵科の下士官に対する訓練課程を反映したものだ。私たちの「革命的活動」は、実際には、敵に対する優位性の証明以外の何ものでもなかった。より清潔で、より勇気があり、ドイツ、アドルフ・ヒトラーとその使命に対する信念が強かった。その道中、私たちにとって多くのことが辛く、言いようのないほど困難であったが、総統を見れば、どんな困難も常に容易になる。総統はいつでもどこでも、われわれにとって比類なき模範であり続けた。われわれが耐えたことは、この人が背負った重荷に比べればたいしたことはなかった。総統の側に立ち、我々と犠牲と危険を分かち合った者は誰でも、生死を共にする同志であった。

総統の強さは、何度も何度も新しい信者を獲得した。ヒトラー兵の数は増え続け、ついに夜が明け、我々の小さなドイツ人の一団だけでなく、ドイツ国民全体がヒトラー兵となった。

しかし、『リーダーシップとフォロワーシップ』はそのためにタイトルを変える必要はない。この作品は、ヒトラー兵士に向けたものであることに変わりはない。私たちはみな兵士であり、仕事の兵士であれ、武器の兵士であれ。今日、まともなドイツ人は例外ではない。私たちは皆、兵士のようにまっすぐで、純粋で明朗で、高潔で騎士的で、必要であれば厳しく、仲間同士は思いやりがあり仲間思いで、ドイツには死ぬまで忠実でありたいと願っている。

継続的な成功は偶然ではない。それらは、勤勉さと犠牲から、人格という価値観からのみ生まれる。このような価値観の創造が教育の目的である。全体が達成した成功は、メンバーにとっての成功でもある。したがって、メンバーはこの教育に従う義務がある。

なぜなら、義務と犠牲はそこで最も高い要求を見出すからである。工場長にも

労働者にも、学者にも学生にも、教師と生徒、母と子にも。ひとつだけ確かなことは、われわれが何をするにしても、われわれのために血を流し、すべてを捧げてくれた人々への弱い感謝にすぎないということだ。

闘争の期間中、同志たちの要請でこの指導の短い草稿を書き留めたとき、私は意図的に、読者が主要な考えをさらに発展させる余地があるように、私が話したことすべてを書き留めなかった。というのも、『リーダーシップとフォロワーシップ』は現在、より広範な任務を担っており、もはや単なるクラスのガイドラインではなく、むしろ単に読まれることが非常に多いからである。これは、音読という古い習慣を攻撃しているのではない。現在の形であっても、個々の発表スタイルには十分な余地がある。重要なポイントは変わらず、それを求める人には十分な材料を提供している。

現在の写真はモザイク画のようなもので、その明るい研磨は暗い色の石を否定しない。モザイクは私たちに、まだやるべきことがあることを思い出させてくれる。過去は、強大で英雄的な時代の印章を携えている。自分たちがそれに値することを証明するのが私たちの仕事であり、未来のニーズに応えるために全力を尽くすのが私たちの義務である。

最高級の武器も重要だが、それ以上に重要なのは、最高の人間がその武器を操ることである。しかし、最も重要なのは、民衆の不滅の団結であり、その息子たちは最高の兵士であるだけでなく、兵士たちを支える最高の労働者でもある。

最高の人間には、この世で最高のもの、すなわちリーダーシップと統治が属する。最高の者が常にリードすべきなのだ。そうでないとまずい。我々は苦い経験からそれを知っている。総統の意志のためには、各人が自分の最高の価値観を用いなければならない。しかし、これらの価値観は空から降ってくるものではない。達成し、獲得しなければならない。我々はスーパーマンではない。もし私たちが最高でありたいと望むなら--敵地に残された人々への感謝の念からそうしなければならないが--、教育、訓練、上級訓練によって要求される努力を喜んで受け入れなければならない。

適切な先導と適切な追従は、イトンの時代によって永遠の記念碑となった。

ドイツ

私たちはドイツに関係している。そのことを何度も繰り返し強調しなければならない。そうでなければ、個人的な関心の圧力に押されて、偉大な理念への関心が薄れたり、あるいは、個人は全体の一部であり、その人の人生は、種類や言語、感情や思想、過去、現在、未来といった民衆の高次の全体の一部となって初めて人生となるのだということを忘れてしまう危険さえある。

最初はとても些細なことに思えたある体験が、いまだに私の心を捕らえて離さない。数年前、私は息子と日曜日の小旅行に出かけた。短い列車の旅は息子に深い印象を与えた：「まだドイツにいるの？最初は笑っていた。しかし、そのとき私は、この子はこの質問で笑われる筋合いはないと悟った。その逆だ！彼はドイツという概念を形成し始めていたのだ。私は、生涯一度も村を出たことのない民族の同志に会ったことがある。大都市の子供たちの多くもそうだ。大ドイツのために戦ってきた私たちの多くも、どちらかといえば田舎にとどまっている。

地方のしがらみから自由になるのは難しい。出自、社会的環境、知的レベル、職業によって形成された視点から世界を見るのである。新聞やラジオは確かに変化をもたらすのに役立ったが、私たちのドイツに対する概念は、不信や嫉妬とまではいなくても、その土地の愛国心によって、必然的に何度も歪められることになる。

ドイツ人がドイツを見せられるようになったこと、ドイツ人労働者の給料で旅行ができるようになったこと、ドイツ人が他の地方でどのように生活しているのかを知ることができるようになったことなど、その成果はまだ計り知れない。それは喜びによる力だけでなく、むしろ、自分たちの村、自分たちの街だけがドイツではないこと、自分たちには大きくて壮大で美しい祖国があること、そして、自分たちは一人の、たくましく、勤勉で野心的な民衆の息子や娘であることを知ることによる力でもある。

歴史的変容の岐路に兵士として立つドイツ人たちに、祖国の本質と性質を、現在の大事件は完全に示している。遠く離れていても、彼らは無数の比較をすることができる。彼らはこの国が美しいことに気づくだろう。あるいは、毎年2回収穫があるため、ある地方では自然がよりいっそう祝福していることを知るだろうし、たとえ不毛な土地であっても、一人ひとりが自分の祖国を愛し、美しいと思っていることを知るだろう。

祖国を愛するというこの思いが、すでに正しい視点を示している。ドイツ兵は書物から学ぶだけではない。彼は自分の目で、国家全体の興亡の記念碑を見る。誇り高く、汚れない北の国民を知り、大国が貧しさから這い上がる力も意志もないことを他の土地で目の当たりにする。

生きた人種的、文化的、社会的歴史が、外国にいる戦士を絶えず取り巻いている。彼は、自分が世界史上前例のない大変革の一翼を担っていることを知っている。しかし、彼の思考は常にドイツに戻る。それに比べれば、彼が誇りに思うのは当然である。高貴で清廉なものを受け入れるのは簡単なことだ。そして彼は、価値あるものは保存されなければならないだけでなく、人生のより深い意味は、より良いものを求める果てしない闘い、最も美しいものの探求、より高貴なものの成就にあることを知っている。

彼はドイツについて考えることがいかに必要かを知っている。このことは、本

国でドイツのために働いているフォロワーの一人に、ドイツという概念についてどのような考えを持っているかを尋ねるとすぐにわかる。やってごらん！新しい定式化によって、あなたの質問に対する答えをほのめかすことで、その人を助けてあげてください。多くの場合、それはヒントにしかない。しかし、それさえも思考と教育のための十分な材料となる。詳細なプレゼンテーションをする時間はないだろう。

しかし、あなたの励ましは、同志があまりにも簡単に見過ごしてしまう情報源へと導くという貴重な結果をもたらす。

例

質問ドイツは地図に色のついた枠線で表示されているのでしょうか？

答え地図上の国境線が現在と異なっていたとき、ザール地方をドイツの一部と見なすのをやめたのですか？オーストリア、スデーテンラント、ダンツィヒはそうでしたか？

質問です：この国境内にある風景、都市、村、川、橋、記念碑、その他目に見えるものすべてがドイツなののでしょうか？

回答ドイツの船は外国の海を航海しているではないか。技術の成果は、ドイツの能力、ドイツの精神、ドイツの勤勉さを全世界に宣言しているではないか。

質問ドイツの国境内にいるドイツ系ドイツ人の人々はドイツ人ですか？

答えてください：外国に住む同胞は、われわれ、すなわちドイツのものではないのか？

質問だ：もし今、われわれの所有するものすべてと、ドイツ国民がどこに住んでいようと、そのすべてを一緒にすれば、ドイツになるのですか？

答えよう：ドイツ由来のもの、かつてそうであったもの、連綿と続く闘争の中でドイツとその周辺に生まれたもの、歴史が警告し義務づける多くのことを伝えているものは、ドイツに属するものではないのか？

質問：ドイツは現在のドイツの民俗、今日生活し、働いている民俗なのだろうか？

答え我々はどこから来たのか？先人たちがいなかったら、私たちは存在していたらどうか？そして、もし私たちの祖先が自分たちのためだけでなく、私たちのためにも気を配り、戦い、願わなかったら、私たちはどうなっていたら？現在を創造している人々と、私たちよりも前に働いていた多くの人々、どちらがドイツのために尽くしたのだろうか？

質問ドイツがすべてですか？過去も現在も？

答え私たちは、自分の中に新たな出発の種を持っているではないか。新しい生命は、私たちを通して成就するのではないのでしょうか？私たちは来るべき世代の父であり、親ではないのか？私たちの愛と忠誠はその世代に属し、私たちの世話と義務はその世代に属さないのか？誰が自分の子供たちに悪いことを望むだろうか？

多くのものがドイツで新たに形成され、新たに確立され、新たに創造されるだろう。未来の作品もドイツのものではないのか？

リーダーとして、フォロワーにこう問いかけよう！このような質問に答えるとき、彼は後に続く人々への愛が深まるのを感じるだろう。この愛は、まだ生まれてもいない人々に対する彼の義務を示すだろう。そして、今自分のそばで生き、生き、苦しんでいる人たちに、自分が何を負っているのかを認識しやすくなるだろう。彼の子供たちやその子供たちが、いつか彼が今そうであるように、いつか彼が今蒔いた種を収穫するようになることを明らかにすることは、彼の人生にとって決定的な重要性を持つだろう。

ドイツとは、かつてドイツだったもの、そしてこれからドイツになるものの総体である。私たちはその真ん中に立っている。われわれより先に墓に入った人々や、彼らがわれわれの立派な手に残した作品に対して敬意と感謝を感じ、来るべきドイツの人々や物事に対してわれわれが負う責任の重さを自覚してこそ、われわれは自分の人生を生きることができるのだ。

私たちの誰が子孫に呪われたと思うだろうか？

ドイツとドイツ民族は、太古の昔から永遠に続く強大な嵐のようなものだ。

国民とは、そこに行進し、過去と未来を結ぶ橋を渡る、途切れることのない列である。この橋の上に立ち、歩いている人たちだけが見えているとしても、彼らだけが考え、感じ、努力し、創造しているとしても、それにもかかわらず、現在のドイツ人たちだけが国家なのではない。この橋には、向こう側の広大な距離で失われた人々や、いつか現在の橋に足を踏み入れるであろう遠くからやってくる人々も属しているのだ。

この川、この行軍部隊の進路と強さは、2つの大きな要素に左右される。一方が他方より肥沃であれば、一方が枯渇することもある。土が血ほど肥沃でなかったり、血が純粋さを保てなかったり、干上がって外国の血が土の支配者になってしまったりする危険を、両者の間のエネルギーだけで克服することができるからだ。適切なリーダーシップがあるだけで、川はしっかりとした川床を得ることができる、その結果、生活空間を確保するための無敵の力を得ることができる。



NSDAP/AOは、世界最大の
 □□□□□□□のプロパガンダの供給者！
 多言語の印刷物およびオンライン定期刊行物
 □□□に及ぶ多言語の書籍
 □□のウェブサイトが多言語で提供

購読申し込みフォーム

() NSバトルクライの定期購読 (今後 12 □□)。30,00ユーロまたはUS\$30.00。[ご希望の言語版をご指定ください]

() 寄付 - あなたのサポートが私たちの活動を可能にしています。

Name _____

Street _____

都市名 _____ 郵便番号 _____

Country _____

(オプション) 電子メールアドレス / 電話番号 _____

小切手の宛先は以下の通りです。NSDAP/AO

郵送先 NSDAP/AO - PO Box 6414 - Lincoln NE 68506 - USA (または "NSDAP/AO" を省いてください。)